

議長定例記者会見 会見録

日時：平成28年7月4日 10時30分～

場所：全員協議会室

1 発表事項

第10回紀伊半島三県議会交流会議の開催について

2 質疑項目

第10回紀伊半島三県議会交流会議の開催について

参議院選挙での知事の行動について

政務活動費について

参議院選挙での知事の行動について

1 発表事項

第10回紀伊半島三県議会交流会議の開催について

(議長)おはようございます。ただ今から、7月の議長定例記者会見を始めます。本日は、第10回紀伊半島三県議会交流会議につきまして、発表させていただきます。第10回紀伊半島三県議会交流会議につきましては、お手元の資料のとおり、紀伊半島地域に共通する課題について、三重県議会、奈良県議会、和歌山県議会の三者で意見交換を行うため、平成20年度から毎年開催しているもので、今年度は7月29日に奈良県で開催します。会議には、本県から私と副議長のほか、東紀州地域選出の議員4名と、新政みえ、自民党、草の根運動みえの各会派から1名の計9名で参加する予定です。奈良、和歌山両県議会からも例年9名前後の議員が出席しており、会議全体で30名弱の議員が参加する予定です。今回の議題は、紀伊半島地域における若者の移住・定住の促進、大規模災害対策、観光振興となっており、これらについて三県で意見交換を行い、三県議会議員の連携・交流をしっかりと図っていきたいと考えております。

2 質疑応答

第10回紀伊半島三県議会交流会議の開催について

(質問) 会議会場で視察を行うという考え方でいいのですか。会議をする場所と視察をする場所は同じですか。

(議長) はい。

(質問) 15時15分から16時までそこを視察するということですか。

(議長) そうですね。15時15分から16時までです。

(質問) 毎年開かれているということですが、議題については毎回変わっているのですか。

(議長) 毎回変わっています。去年は森林関係がありました。観光とか、森林関係とか、あるいは紀伊半島なので過疎対策とかが多いと思います。

(質問) 今回挙げられている三つの議題の中で、議長が特にポイントに挙げていらっしゃる、あるいは期待を寄せられていらっしゃる議題がありましたら、理由と合わせてお願いします。

(議長) 今まさに地方創生も含めまして、地域の人口減が非常に顕著になっておりまして、昨年から今年にかけて、地域の少子高齢化対策を議論してきたところでありまして、私自身も紀伊半島地域における若者の移住、定住の促進、こういった部分についてしっかりと対応していくべきというふうに思っております。それからいつも議題に挙がっておりますのが、南海トラフ等々ですね、そういった大規模災害対策、こういった部分につきましてもしっかりと皆さんとの意見交換をしていきたいというふうに思っております。

参議院選挙での知事の行動について

(質問) 鈴木知事が参院選で特定の候補者を支援するということがされましたけど、そのことについて議長の受け止めをお願いできますでしょうか。

(議長) 私の考え方よりも前に、県民の皆さんからご意見をいただいております、すごい長い電話で叱られたり、議長はとめられやんのかと非常に厳しい反応がずいぶん多いですね。県民党であった知事やと思ひ込んだけど、がっかりしたとかですね。私から申し上げるというのはなかなかないんですけど、私自身も多くの皆さんの声を聞いておりますと、今までクリーンなイメージやったのが、突然そういったものがなくなってしまったとか、この間、外宮さんの朔日参りの時、いろんな市民の方に会うんですけど、呼び止められまして、誰を応援しているとか、そんなこと関係なしに、あんなことええのかというのをまず聞かれまして、がっかりしたという声を聞きました。あんまり総理と一緒に何かやってくれたみたいなイメージはないですし、そんなお話を聞きながら、やっぱり三重県議会というのは分権時代を先導していくところなので、そういう活動を長いことしてきた立場からいうと、一般の人、我々としても総理

にべったりに突然なってしまったと戸惑いを感じております。ちょっと気になっているのが、外宮さんの前で演説を聞いていた人が教えてくれたんですけど、サミットのことですね。伊勢志摩サミットの成功は総理のおかげみたいなことを言いながら、ああいうことを繰り返して言っていると、クリーンアップ作戦とか、それから花いっぱい作戦だとか、あるいは無数のオール三重で今回のサミットに参加した、成功させようと思って頑張った人たちが、一体そのことと選挙と結びつくということに対してどう思っているのか、全体を見ると、私の一言は、非常に若くて頑張っている知事やったのに、ちょっと悲しい思いをしましたね。今そんな気持ちです。思いというか、気持ちですね。

(質問) 大半が聞かれた話で、戸惑いを感じているとか悲しい思いをしたというのが感想なんですか。

(議長) 自分自身は副議長の時も、それから去年1年間そして今年と、ずっと知事と接する機会も多かったので、知事の今までのスタイルを見た時に、それと比べた時に、特にぶら下がりの記者会見、公務ですね、すっぽかしてと言いますか、止めて、片一方の応援に入ったことってというのは、許せないことではないかなという感じはしましたけれども、ちょっと悲しいですね。

(質問) これは三谷さんとかに聞くべきなのかもしれないんですけど、出身母体の新政みえとして対応は何か考えているんでしょうか。

(議長) どうなんですかね。また三谷さんに聞いてもらえれば。ちょっと承知しておりませんが。なんかいろんなこと考えているみたいですけど、ちょっとわかりません。

(質問) 長い電話は自宅にかかってきたのですか。

(議長) これは多分片一方の陣営の人だと思うんですけどね。自宅じゃなしに、2回、自宅じゃなかったですね。携帯へ。

(質問) 知り合いってことですか。

(議長) そうですね。県庁の方にはどんなにかようわかりませんがね。

(質問) 議長あてにかかってきていますか。

(議長) いや、知り合いだから、ということやと思うんですけど。「あんた何とかならんのか」って言われてもねえ。

政務活動費について

(質問) 政務活動費なんですけど、この前支給額とか出たんですけど、以前は厳しい情勢でカットされてましたよね。

(議長) そうですね。はい。

(質問) その時の情勢に比べて、今って多分そんなに好転したと思えないんですけど、議員定数の方は選挙区調査特別委員会で議論がなされるかどうかというところだと思うんですけど、政務活動費の方って何かそのような話とか動きとかありますか。

(議長) 今のところ金額は頭打ちになっておりまして、それをどれだけオーバーしても各議員が自腹でやっていくという形です。それから、そこまで活動費を使えない議員のこともありますので、今のところ大きく変える形ではないかなと思っております。これも、各議員の皆さん方と議論して整理をしていく必要があるかなと思います。

(質問) 金額自体というよりも減額措置をまたやるような話はあるのですか。

(議長) 今のところその議論はしてないですね。各議員が政策立案したり提言したり監視・評価などを真剣にやろうと思うと、今使っている額はいるのではないかなと思っております。それを絶えずオープンにしながら、動いております。ただ、財政状況によっては皆さんとの議論の中で数字が変わることもあるかもわからないと思いますが、今のところ適正に活用するには各会派、議員には伝えていきたいと思っております。

参議院選挙での知事の行動について

(質問) 確認なのですが、知事に対する対応というか、議長の受け止めとして許せないと感じるという言葉がありましたけれども、サミットの成功は総理のおかげという発言だったり、公務のぶら下がり会見をやめて応援に入るっていうこの2点に対して許せないと思っているという理解でいいですか。

(議長) これからはしないということなのですが、公務の部分が行き過ぎじゃないかなと思いました。サミットについては、総理が決めたことだと思うので

すけども、成功させたのはオール三重県、多くの県民の思いの中でたくさんの方々が、私もクリーンアップ作戦に3回行きましたけど、そういったオール三重県で取り組んだことと選挙と結びつけてないんだと思うのですが、話を聞いた人達はサミット、サミット、それを最後に誰々をお願いします。これは混同してるかなぐらいです。それを許せる、許せない、ではないと思いますけども。

(質問)つまり許せないとは公職である知事という職務に就きつつ、応援しているという選挙活動をしていることに対してかかった言葉ですか。

(議長)どこまでが公務かわからないですけども、そういう報道がありましたので、それはまずいのじゃないかなと、それはちょっと許すことはできないかなと思いますね。

(質問)はい。わかりました。ありがとうございます。

(以 上) 10時47分 終了